

平成29年第1回東大和市議会建設環境委員会記録

平成29年1月23日（月曜日）

出席委員（7名）

委員長	佐竹康彦君	副委員長	根岸聡彦君
委員	森田真一君	委員	実川圭子君
委員	関田貢君	委員	関田正民君
委員	木戸岡秀彦君		

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

議会事務局職員（5名）

事務局長	鈴木尚君	事務局次長	長島孝夫君
議事係長	尾崎潔君	主任	櫻井直子君
主事	須藤孝桜君		

出席説明員（なし）

会議に付した案件

（1）所管事務調査

市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みについて

午前 9時27分 開議

○委員長（佐竹康彦君） ただいまから平成29年第1回東大和市議会建設環境委員会を開会いたします。

○委員長（佐竹康彦君） 所管事務調査、市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みについて、本件を議題に供します。

本所管事務調査については、平成28年第6回の本委員会で調査を行うことを決定し、これまで委員会での質疑や行政視察も含めた現地視察を行うなど、さまざまな調査を行ってまいりました。ここで、これまでの調査結果を踏まえ、来る第1回定例会におきまして報告を行いたいと考えているところであります。

本日、机上に資料5点を配付させていただきました。

まず初めに、資料1所管事務調査「市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みについて」の取りまとめに関する案をごらんいただきたいと思います。

お手元の資料1をごらんください。

今回の所管事務調査を取りまとめるに際しまして、6項目に分けて報告書を作成していきたいというふうに考えております。

まず、1といたしまして、初めに今回の所管事務調査の経緯につきまして述べたいと思います。

2といたしまして、行政視察をした天草市の事例報告並びにそれに対する委員会での議論について取りまとめを行いたいと思います。

天草市の取り組みにつきましては、①天草宝島人材育成事業について、②天草市起業創業・中小企業支援センター（アマビズ）について、③既に終了いたしております産業振興事業（公募型）について。これらの取り組みを行った上で、次に委員会での各委員の意見・議論について取りまとめを行いたいというふうに思います。

3番目といたしまして、担当部課長によります東大和市の取り組みの調査並びにそれに対する委員会での議論について取りまとめを行いたいと思います。

まず、東大和市の取り組みといたしまして、①創業塾の進捗状況と今後の方向性について、②商工会、J A、金融機関との連携、③既存の市内事業者に対する事業の存続、発展に関する行政のかかわり、④地元農家の直販の箇所、売り上げについて。この4点について内容を取りまとめたいと思います。その上で、次に委員会での各委員の意見・議論について取りまとめを行いたいと思います。

4点目といたしまして、天草市と東大和市の事例比較とこれに対する委員会での議論として、比較検討した状況として、①東大和市の取り組みが進んでいると思われる点、②比較対象の天草市の取り組みが進んでいると思われる点、③東大和市の取り組みで、今後も継続して取り組むべき点と改善点、④比較対象の天草市の事例から、東大和市の事業に取り入れたほうがよいと思われる点。これらについて皆様の御意見をいただいた上で取りまとめたいというふうに考えております。

5番目といたしまして、調査と議論を経ての今般の所管事務調査における委員会としての意見取りまとめといたしまして、まず、調査をして議論を経て、委員会としておおむね意見が一致をしている点として、①積極的な推進を要望する内容、②漸進的な推進を要望する内容として取りまとめたいと思います。次に、議論を経て、委員会として大勢ではないが少数意見として報告書に記載すべき点、これらについて、もしあればここで取りまとめを行いたいと思います。

最後に、6番目といたしまして、終わりに今後の産業振興政策に期待をしてということで、コメントを載せさせていただきたいというふうに考えております。

以上、御説明をいたしました。この取りまとめに関する案をもとに所管事務調査をまとめてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） 御異議ないものと認めます。

それでは、案に基づいてまとめてまいりますので、よろしくお願いをいたします。

では次に、資料2、天草市の事例及び資料3、東大和市の調査をごらんいただきたいと思います。

これまでの調査において、委員の皆様からいただきました御意見及び質疑内容をもとに作成をいたしました。御確認をお願いいたします。この資料2、資料3につきましては、これまで各委員の皆様からさまざまな御意見、また市長部局と交わしました質疑内容をこちらで簡単にまとめさせていただいたものでございます。御自身の御意見、また各ほかの委員の方の御意見等ごらんいただきながら、御確認をいただければというふうに思います。

○委員（根岸聡彦君） 1点、この内容についてということではなくて、資料3の創業塾の進捗状況と今後の方向性について、2ページ目の一番下がちょっと切れているんですが。

○委員長（佐竹康彦君） 本当だ。そうですね。

○委員（根岸聡彦君） そこは、大体この後の内容はわかるからいいんですけども。

○委員長（佐竹康彦君） それでは、用意をしたいと思いますので、ここで暫時休憩いたします。

午前 9時32分 休憩

午前 9時36分 開議

○委員長（佐竹康彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

今、根岸委員から御指摘をいただきました資料につきまして、差しかえをさせていただきましたので、その差しかえをもとに今後また議論を進めてまいりたいというふうに思いますので、よろしくお願いをいたします。

ほかに、この資料の内容等について何か御意見等ございますでしょうか。

もしないようでしたら、順次議事を進行させていただきます。

では次に、資料1の取りまとめに関する案の4で、天草市と東大和市の事例比較とこれに対する委員会での議論としておりますので、天草市と東大和市を比較検討いたします。

資料1の4の①東大和市の取り組みが進んでいると思われる点、②比較対象の天草市の取り組みが進んでいると思われる点、③東大和市の取り組みで今後も継続して取り組むべき点と改善点、④比較対象の天草市の事例から東大和市の事業に取り入れたほうがよいと思われる点に、先ほどの資料2及び資料3での意見及び質疑内容をそれぞれ分類していきたいと思います。

それでは、分類について御発言をお願いしたいと思います。

まず、資料2の天草市の事例について、資料4のほうに分類をしてみたいというふうに思います。委員長といたしましては、この天草市の事例について、この4つの分類の中では、②比較対象の天草市の取り組みが進んでいると思われる点、④比較対象の天草市の事例から、東大和市の事業に取り入れたほうがよいと思われる点、この2つに分類されるのではないかとというふうに考えております。それでは、順次こちらのほうで進

めさせていただきますので、逐次御意見をいただければなというふうに思います。

まず、資料2の一番左側、天草宝島人材育成事業について。それぞれ委員会でア、イ、ウ、エ、オ、カと6つの御意見をいただきました。これらにつきまして、それぞれこの分類に分けてまいりたいというふうに思うんですけども、まずア、高校生を対象に起業塾を設けている。地元で根差して若い人たちに定着してもらおうと、長いスパンで取り組むということは非常に重要だというこの点。この点について、どちらに分類したほうがいいかということでございますけれども、御意見等あれば承ります。

○委員（関田 貢君） 私はね、この人材育成ということで、東大和市で、こういう天草でやってる事業が取り入れられるかといったときに、当市の高校生の枠組みというのは、天草市というのは8万2,000の人口で、島の中に高校が1つ。私たちのまちは8万6,000人で、都立高校という2つの高校があるということに対して、その高校が1つだったらまとめやすいけれど、そこ2つに同じ説明に行って、その中から創業塾に対して、私たちは「いい、いい」と言っても、高校生の反応がこれだけ都市化されたまちの若い青年たちが創業塾にどう期待をするかというあれが、皆目見当がつかない。

島全体から持ち上がってくる人の雇用。これは雇用から始まってのね。雇用と支援を行政がどうするかといったときに、僕はこれは東大和では高校があるということで、僕は課題の4番のこういうことって、課題の3番か4番のどこにおさめるのかなっていうふうな私は気がします。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） 分類としては関田貢委員に同意をいたします。

確かに高校生を対象にした起業塾というのは非常に斬新的な考え方だとは思いますが、天草と東大和においては、やはり進学率の問題が決定的に恐らく違うと思うんですね。やはり東京都にある東大和というのは、その高校に通う生徒の多くは、多分、大学の進学、あるいは専門学校ということで、上位の学校に進むことを目的として通っている方が非常に多いと。一方で、天草の場合には恐らくそこまで、東大和市ほど進学率というのは高くないのかなと。実際にデータを見てはわかりませんが、わかりませんが、ちょっとそこを単純に比較するというのはなかなか難しいだろうなというところですね。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今2名の委員の方から、天草市の高校の状況と東大和市の高校の状況は、地元で根差したそれぞれ独自の状況の違いがあるので、一概にこの制度をそのまま東大和市の産業振興の取り組み、また人材育成の事業に取り組むことはなじまないというような趣旨の御意見だったのかなというふうに思います。

そういたしますと、天草市の取り組みは進んでいるけれども、これは、例えば④の東大和市の事業に取り入れたほうがよいかどうかという、状況がまるきり違うので、天草市の独自の取り組みとして進んではいるという認識だけでも、東大和市に取り入れるべき状況ではないというような、そういった認識を私、今持ったんですけども。こういった意見につきまして、ほかに何か御意見等。

○委員（根岸聡彦君） 済みません。もう1つ、つけ加えさせていただきますけれども、高校生を対象にということで、高校生ということだけに光を当てるのではなくて、これを応用して、天草では高校生を対象に起業塾を設けましたよと。じゃ、東大和市は何か特別な、例えば障害者の就職支援というような形で、何かこれを応用してですね、広げることができないのかというところ。もしそういうことができれば、③として、今後も継続して取り組むべき点というところに該当できるのではないかなというふうな感じを持ちました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

そうしますと今、例えば東大和で創業塾で取り組んでいる中にこういった、高校生という枠ではないけれども、何か焦点を絞った形で、新たな人材育成ということについて取り組みを広げていく。そういった点も重要じゃないかというような意見だというふうに私は受けとめたんですけども。これに対する御意見、またほかの方の御意見等ございますでしょうか。

○委員（木戸岡秀彦君） 私も、天草と東大和と比べると、そういった進学率的な部分、東大和に関しては恐らく次のステップに、大学、専門学校に進む率が高いのかなという部分は思うんですけども、でも高校生のうちに、そういった起業に対する考え方というものを知ってもらうということは、先々将来的に、自分が将来的に進むべき道が、そういうことに取り組むことによって、やはりまた自分自身の考え方が幅広くなってくるんじゃないかなと思うんですね。そういった意味では、全く天草と東大和は違うということではなくて、高校生に対してもこういったものに取り組んでもいいんじゃないかなという事も自分自身は思います。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見等ございますでしょうか。

そうしましたら、今、全く東大和市の事業にこういった高校生ですか、また今、例えばということで障害者の方ということで御意見もいただきました。まるきり天草市のように高校生を対象に起業塾ということの、丸々100%東大和でやるということではないけれども、何かしら形を変えるか、焦点を変えるかという形で取り組むことを検討するなりしたほうがいいということですので、そういたしますと③番か④番かということで。今、根岸委員からは③番というお話がございましたけれども、今やっている東大和市としての取り組みに付加する、つけ加えるという点で、③番という形で分類させていただいてもよろしいのでしょうか。もしそれでしたら、③番に分類させていただきますけども。

○委員（関田 貢君） この分類ということでね、入り口できちっとしておかなきゃいけないのはね、天草と当市では、僕は人材育成で、まず雇用をどうするかといったときに、雇用の守備範囲を広げちゃったらね、いろんなことまで考えなきゃいけない。今、私たちは、天草で雇用をどうふやすか。そして雇用したときに産業振興にどう雇用があって、地元の産業を復活させるかということで、そのときに地域の天草は海の問題を取り上げ、そしてそういう問題の中でいろんな加工品だ何だという地場産業をつくるという目的でいるから、やはりここは計画的な話を中心に据えないとね、今言うように雇用で、障害者まで膨らんだそういうのを何かそこに適用しなきゃいけないということじゃなくて、雇用ってということだけを考えれば、雇用するためには産業振興をふやさなきゃいけないといったときの産業振興と雇用を考えたときに、雇用から産業振興の復興をといたときに、東大和の産業をやるためには、じゃどういう復興があるのか。商店街が衰退している。じゃ、衰退しているんだっつらば、それを復興させるために創業塾を活用して、そういう2世、3世を育てるということもあり得るわけですから。

ですから、今はこういう、僕なんか研修行って、雇用という問題をふやすための雇用は、こういう創業塾がなければだめだと。そして、産業振興が創業塾を勉強したから地元の理解が進んで地元に着定する。それで産業が発展してきたという、そういう基本を持ってないと、これ拡大していっちゃうと、障害者まで考えるってったら大変な枠になっちゃう。まとまなくなっちゃう。ですから、計画なら計画、雇用ってということについて、そして雇用したら産業振興はどうふえたか、減ったかということが議論されないと、これ、まとまりのいろんなことで考えていくと、みんな提案したことって、そのまちなちでは非常にいいことなんですよ。ただ、当市と地形が違ったり環境が違うから、これは取り入れられないので、それを当市で生かすということを広

解釈する必要ないと思うんですよ。

雇用ができないならできないで、当市は、この天草の中でこういう人材の規模、組織の考え方を取り入れるとかっていうふうになると思うんですよ。だから、そういう入り口をしっかりとしないと、私はいけないと思う。

○委員長（佐竹康彦君） 今、関田貢委員から貴重な御意見もいただきました。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（関田正民君） 今、関田貢委員が言うのと同じなんですけど、やっぱり東大和と天草とは全然場所が違うわけですよね。向こうでは島からいかに人口を食いとめるか、出る人を食いとめるかの事業だと思うんですよ。東大和は今言うようにあちこちから来てるし、今後も今言うように、大学進学、専門学校、全然趣旨が違うんで、これはもう対象外でいいんじゃないのかね。私はそう思いますね。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今、対象外という御意見が出ました。ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（実川圭子君） 私も、分類するとき②番と④番ということで、もちろんいい事業なので取り入れてもらえるにはいいんですけども、そんなにすぐにこれが進むかということ、今の現状でやはりちょっと難しいかなと思うので、天草の事業はすごく進んでいるということで、私は②番のほうでいいのかなと思っていて、もちろん取り入れていただけるようになったらその時点で参考にしていただきたいなということで、②の分類でいいかなと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

今、分類から対象外にするというような御意見もいただきましたし、また、東大和市とは全く別に天草市の事例として、そこはそこできちんとおいておくということで②番というような御意見もいただきました。もちろん対象外にという御意見も私はありだというふうに思ってます。この分類されないものにつきましては対象外にして、例えば少数意見の中でそれを生かしていくという方法もあるかと思しますので、そこら辺も、済みません、勘案していただきながら、御意見をいただければなというふうに思います。

ほかに何か御意見等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） 確かに高校生を対象にということで、そこに限定するのであれば、東大和市の状況にはそぐわないだろうなというふうに思います。ただ、天草は天草の状況を考えて高校生を対象にということで、そこは天草の意図を持ってやっているわけですから、それをそっくり東大和に当てはめるとということ自体に無理があるということは否めないわけですね。

ただ、それを見てきたときに、いえいえ、東大和市の状況に合わないからやめちゃうよというのではなくて、それを参考にして、その考え方の部分ですよね。その考え方をベースにして東大和市に合った考え方は何なのというところを、一步発展させていくということも必要ではないかなというのが私の意見です。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今、種々御意見をいただきました。私のほうでまとめさせていただくのをちょっと御提案するんですけども。まずは天草市の事例そのもので、ここで委員会の場で委員の皆様からいただいた御意見そのものについての分類をさせていただいて、そこから先、そこから展開できる考え方、発展して東大和市にカスタマイズされるような御意見につきましては、一旦今回は置いておいて、そこにつきましては、例えばこの後、少数意見の取りまとめということで御意見も伺いたいと思いますので、その中で、分類はされないけれども、東大和市に

これとこういうことについては取り組みとしてカスタマイズされながらやっていくべきだと、こういった形で御意見を取り入れることも可能でございますので。もし差し支えなければ、調査してきて学んできた事例そのもの、また、この委員会の場で御発言いただいた事例そのものについて、まずは分類をする。分類になじまないようであれば対象外とさせていただきます。こういった形で進めさせていただけたらというふうに思いますけれども、この点につきましては御意見いかがでございますでしょうか。

もしよろしければ、そういった形で今後進めさせていただきたいと思います。

まず、1点目のアの意見につきましては、そうしましたら②番という御意見もいただきましたし、また対象外というような御意見もいただきました。皆様の中でほかに、②番でいいんだ、対象外でいいんだという御発言をいただいた委員以外の方で、何か御意見等ございますでしょうか。

そうしましたら、一応今回、今現時点では②番という形で、天草市独自の取り組みで、東大和市にこれそのものについては関係ないけれども、天草市としては取り組み進んでいるんじゃないかということで、②番に分類させていただいてよろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長（佐竹康彦君） 済みません、ありがとうございます。

そうしましたら次、イ、起業塾に高校生コースを設けて、若い人たちに起業を目指す教育をするということ、そして地元への愛着心を芽生えさせてきたこと。これは地元で仕事をしようという意識や雇用の促進につながる素晴らしい取り組みだということ。これは同内容でございますので、これにつきましても②番ということでよろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長（佐竹康彦君） 次に、ウ、塾で取り上げるテーマに「何をしたらいいかわからない…種を探しましょう」「何をしたらいいかわからない…手を見つけましょう」「うまいやり方がわからない…一緒に考えましょう」という3つを掲げていて、大変インパクトがあると感じたと。真剣ゆえに、悩み多き起業家のかゆいところに手が届くような視点であり、素晴らしい取り組みだ。これにつきまして御意見をいただければというふうに思います。

もしないようでしたら、これも天草市の取り組みということで、これを参考に何か東大和市にカスタマイズするというのであれば、また御意見を改めて頂戴できればというふうに思います。これは天草市独自の取り組みということで②に分類させていただきたいと思いますが、いかがでございますでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。それでは②にさせていただきます。

次、エ、東大和市に置きかえて、当市では職場は離れたところというのが非常に多いが、東大和市で活躍してもらう人をふやしたいと思っていたので、大学の先生方と協力しながらこうした取り組みをやるというのは非常に参考になる。これについてはいかがでございますでしょうか。

○委員（関田 貢君） こういうエの考え方は、私たちは大学がないわけなんです、大学がない中で、うちは幸いにも中小企業大学校、その大学校があるということで、大学校は大学校のカリキュラムがあると思うんですね。こういう創業塾を地元用に改善する行政から中小企業大学校に、こういう塾、人材育成のための東大和流のことを大学校にお願いしてタイアップするというようなことは、僕はできるんじゃないかなと。だからこれは、非常にこういうような大学を活用したやり方。うちは中小企業大学校を活用した事業を、何とかこうい

う方法で進めることが起爆剤になるんじゃないかと私は思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

そうしましたら、今、関田貢委員から御意見もいただきました。これは意見そのものが東大和市に置きかえてという観点でございまして、大学の先生方ということは天草市の事例でございすけれども、本市は中小企業大学校という、またこれも教育研修機関もございすので、そういった形ですと、まるっきり東大和市にない事業ということが対象の意見である。④番の分類ではなくて③番の継続もしくは改善、よりよくしていくということに分類されるのではないかなというふうに委員長としては考えますけれども、この点についてはいかがでございましょうか。（「いいと思います」と呼ぶ者あり）それでは、③番に分類させていただければというふうに思います。

次にオ、短期間のうちでの成果を求めるアマビズとは違い、長いスパンで高校生など若い世代に、生き抜く力を与えていく、将来の何かの役に立つといった視点で、広く成果を捉えているのはすばらしいということでございます。これはアやイと同様に、高校生を対象とした意見でございすので、天草市独自の取り組みということで、②で分類させていただきたいと思いますが、これについて、いかがでございましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） それでは、②に分類させていただければと思います。

次にカ、東大和市における中小企業大学校との連携や活用の仕方を見た場合、天草市はどううまく活用できるように研究していないのではないかな。地元企業の業績を伸ばしていくという点から、この塾やアマビズなど天草市の取り組みを参考にアドバイスできる、業績の向上に寄与できる仕組みをつくれなものだろうかという意見でございす。これにつきましては、御意見いかがでございましょうか。

今、皆様から③番という声が幾つか上がってございす。やはり、先ほど関田貢委員からの御意見等にもあったような、地元中小企業大学校と東大和市の取り組みという御意見でございすので、これは③番に分類させていただいてもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） それでは分類させていただきます。

続きまして、天草市起業創業・中小企業支援センター（アマビズ）について、この視察内容のそれぞれの御意見について移りたいというふうに思います。

キ、市の若手職員が問題意識を持って新規事業を起こしたことに感銘。これは御意見というよりは感銘ということでございます。これについては分類はどれなのか、また、対象外でよろしいのかどうか。これについて御意見いただければと思います。

○委員（実川圭子君） 本当に感銘しましたけれども、事業としての取り組みということではないので対象外でいいと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。今、対象外という御意見をいただきました。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

それでは、このキの意見につきましては対象外ということにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ク、担当職員が若いのが魅力。これはキと同様の御意見でございますけれども、これも対象外ということでよろしいですか。

○委員（実川圭子君） 対象外と言いましたけれども、少数意見というか、報告書の中で意見としてはこういうことはしっかり入れていただきたいと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

市の担当職員が若い、また問題意識を持っていらっしゃるということ、これは少数意見でということでございますね。はい、承知いたしました。

続きまして、ケ、産業振興や雇用に対する補助金の変化がこの事業を生んだのではないか。基金のあり方の変化がこの事業の展開に関係している。こういった御意見がございました。これについては状況分析というような御意見でございますけれども、これは、この分類にどれか当てはまるところがあるのか。もしくは対象外、また状況分析ということでしたほうがいいのか。（発言する者あり）今、委員の皆様の中から、当てはまらないのではないかとのお声もございました。

それでは、よろしければ、これは状況分析ということで、対象外ということにさせていただいてもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

それでは、そうさせていただきます。

次に、コ、行政担当者の若さ、柔軟性が重要と思う。市の事業者や雇用が減少したという危機感から、若い人の知恵が生まれた。これもキ、クと同様の御意見でございます。事業に直接かかわることでございませぬけれども少数意見、もしくは、ここまで皆様の御意見が複数出ていますと、報告書の何かしらの意見の中に反映させるということも考えられます。何か御意見等ございましたら、いただければと思います。

○委員（実川圭子君） 少数じゃなくて、大勢の意見ということで、何か報告していただけたらと思います。

○委員長（佐竹康彦君） 今、実川委員から、この職員の若さ、また若い方の考えを事業に生かしていくということについては、分類にはなじまないけれども、報告書の中で委員の方々の大勢の意見ということで、少数意見でない部分で反映していくということでございます。もしよろしければ、報告書の最終的な取りまとめ案、最後の部分にでもこういった御意見を反映させていきたいというふうに思いますが、この点につきましてはいかがでしょうか。

そうしましたら、そのようにさせていただければと思います。分類に関しましては対象外ということにさせていただきます。

次に、サ、市の総合計画における「宝島」構想からこのような事業が出てきた。やはり計画を実現するためにどうするかという、方向性を根底に持っていることが大事だと思う。ということでございます。これにつきましては、御意見等ございますでしょうか。

これにつきましては、当市もそれぞれ総合計画、また産業振興に関する計画もございまして、この計画をもとに事業も当然進めているところでございます。そういった部分からいたしますと、仮に分類するとしたら③番なのかなというふうに委員長としては考えております。もしくは、これは分析の御意見だということで、対象外ということにすることも可能かなというふうに思っております。改めて委員の皆様から何か御意見等いた

できれば幸いです。何かございますでしょうか。

○委員（関田 貢君） この宝島というアイデアを構想の中で、構想というのは20年構想、実施計画で10年計画の中でこれを生み出してきたという、この方法論はね、当市も基本構想があり、そして実施計画を導き出して、それで計画から実施計画、3年計画におろすわけですから、こういう宝島構想みたいな目玉が見つかったという構想については、ここに書いてあるとおり、やはり計画を実現するためにどうするのかという方向性を見出す一つの、宝島というのはよかったよということで、当市もこれと同じような構想を見つけ出すといいねということで参考にするには十分だと私は思います。だから③番でいいと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに何か御意見等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） ちょっと分類は非常に難しいと思うんですね。大きなタイトルが「天草市起業創業・中小企業支援センター（アマビズ）について」ということで、このタイトルについてということなので、東大和市の基本構想だとか基本計画だとかという、大きな枠組みとの比較ということではないと思うんですね。ですから、もし単純に東大和市の場合と比較するのであれば、いわゆる起業創業塾についての何かそういったものがあって、それとの比較の中でどうなんだということになりますので、ちょっと分類が非常に難しいなというところです。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（関田 貢君） 今、僕が提案した基本構想とか基本計画ということは、僕らが研修に行ったときの設置に至った経緯の中でも、地域資源を起爆剤で起こして産業振興につなげるという手法を編み出すために、中小企業支援センターが考えて、この中身をね、この天草をどうしようといったときに、基本構想ではこれこれこうだと。しかし、東大和の基本構想や基本計画では、こういう中小企業支援センター的な発想はないと。だから、私はこういう商工会が国の産業振興を伸ばすためにこういう方法を取り入れたということは、僕はすごく価値ある中身だということで、商工会がモデルとした、国も注目してその支援の中に確かな実績を残したということがうたわれてるわけですから、それが構想から基本計画、当市は実施計画とおろさなきゃいけないけど、こういう考え方を基本構想の中から引っ張り出し、そして基本構想、基本計画へ引っ張り出して実施計画にのせてくという方法は、僕は買えると思うと、こういうことですよ。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

今、お二方から御意見いただきました。関田貢委員からの御意見に従いますと、天草市の事例そのものではないけれども、当市も同じように抽象化して言えば、計画に基づいて順次進めていくという中で、そういった天草市の取り組みも見習うべき点があるんじゃないかということで、これは③番ですかね、③番のほうに分類、継続、改善ということで分類できるのではないかな。一方、根岸委員のほうからは、そもそも分類になじまないような、そういった意見なのではないかなというふうな御意見をいただきました。

それぞれ皆さんも御意見あるかと思うんですけども、これについて、皆様のほうで何か御意見、御感想等あれば、お聞かせいただければと思います。

○委員（根岸聡彦君） もともと先ほどの分類については、要は東大和として応用的に考えるということはずいぶん、この事案について、分類が直接できるのかどうかということでやっていきたいと思いますというふうにルール

化をしたんではなかったのかなというところていくと、直接結びつくものではないというのが私の考えです。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今、この宝島構想ということそのものについて、調査した内容そのものについての分類ということでルール化して、今始めておるので、その分類ということについてはなじまないということでもございました。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

それでしたら、今、根岸委員のほうから改めて御提示もいただきました、調査した内容そのもの、また御意見そのものについて分類するかどうか。東大和市において展開する、また発展させるということは対象外としようということで確認もございましたので、その考え方に従いますと、これは対象外となるけれども、今、関田委員もおっしゃっていただきました、計画に基づいて逐次進めていくということも重要だということの観点から、これは報告書の意見に、市のほうとして総合計画や産業振興に関する計画にきちんと基づいた形で事業を進めていくということについての意見を反映させるという形に今、取りまとめをさせていただければなどというふうに思いますが、これにつきまして御意見等あれば承ります。

○委員（関田 貢君） 委員長ね、僕は今の問題はね、事業所統計で平成18年から24年の6年間で事業所数が767の減になったと。従業員も3,993人の減と。中小企業支援による雇用の場の確保が重要な課題だということが根底にあってね、天草ではこの問題が大きくクローズアップされて、この問題の関連に宝島構想というのが僕はなったと思う。このいきさつをぼんと考えたときに、こういう危機感があるということが認識にあって、そういう危機感がこのまち全体がね、天草は島、そういう地域で、高校も1つあるということで、その一つ一つを取りまとめて全体意識のまとまりができた。だからこそ、物事を動かすときに構想があり、計画があり、宝島みたいなことをやるといいねというふうに僕はこの関連が進んでくるだろうと。

だから僕は、そういう意味の構想というのがね、こういう危機感がなくしてこういうことは生まれないと思う。だから私は、こういう危機感があるから、中小企業の支援事業を振り返りながらこういう問題を解決する。そして雇用をふやすにはどうしたらいいとか、そういうことで国の補助金を活用するにはどうしたらいいとか、いろんなことがもろもろ絡んでくる。そうしたときにこういう言葉が生まれて、私たちが説明を受けたときも天草の環境のやり方ってのはすごいなと。だけれどそこは地域性があって、東大和の地域性とまねできるところ、できないところってある。だけれど、組織のつくり方、あるいは関連、その関連をもって東大和の基本計画や基本構想はこういう考え方があっていいねというようなことに、僕は題材として使えるというから、僕は③番の取り組むべき改善の中で検討したほうがいいんじゃないかなというふうに私は思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今、関田貢委員から改めまして、分類をしっかりと③番にしていくべきだというような御発言をいただきました。今、根岸委員、関田貢委員からの御意見をいただきましたので、そうしましたら、各委員の皆様の御意見、1つずつちょっとお伺いをさせていただきまして、その大勢でちょっと分類を決めたいなど、また対象外にするかということを決めたいなどというふうに思いますけれども、これについては御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） そうしましたら、木戸岡委員は、これの意見につきましては、お二方の意見を御参考にしながら、どういった形がよろしいのか、御意見を承ればと思います。

○委員（木戸岡秀彦君） 宝島構想ということで、計画を実現するためにどうするかという方向性を根底に持っているということは、これはすごく大事なことだと思います。基本的にはそういったことを考える上では、継

続的に取り組むという部分ではないかなというふうに私は考えます。

○委員長（佐竹康彦君） そうしましたら、③番に分類をしたほうがいいという御意見ですね。ありがとうございます。

○委員（関田正民君） 難しいね。あえて言うならば③番でいいんじゃないですかね。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

○委員（森田真一君） あえて言えば、やっぱり天草が具体的なものとして落とし込んだという、そういう意味では東大和よりは進んでいるっていう言い方ができるのかなと。自前でそれをやったわけですからね。そういうことは言えるかなと思います。

○委員長（佐竹康彦君） そうしましたら、分類……

○委員（森田真一君） 分類で言うと②ということでもいいかなと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ②ということですね。ありがとうございます。

○委員（実川圭子君） 天草の宝島構想というのが、イメージ的に東大和の総合計画とちょっとイメージが違ったので、私はこれはすごくいいなというふうに思ったので、③かと、やってないかという東大和だっけきちんと総合計画でやっているの、そういう意味では③番かなと思うんですけど。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

そうしましたら、③番という御意見が、意見の幅は今ございましたけれど4名。②番という方が1名で、これは対象外だという方が1名でございました。一応、ここで多数決という考え方をするのも何なんです、意見の多かった③番に分類させていただきながら進めたいと思いますが、これについて御意見等ございますでしょうか。

いいですか。済みません、ありがとうございます。

そうしましたら、この意見については③番に分類をさせていただければなというふうに思います。

続きまして、シでございます。

過疎化が進む中で危機感を持っていた。地域おこしの一つの手法として、f-Bizを参考にセンターをつくり起業塾を立ち上げることになったと考える。これは状況分析ということでございますけれども、これについて何か御意見等ございますでしょうか。

○委員（木戸岡秀彦君） これは過疎化ということなので、東大和市には現時点ではなじまないという部分がある…。このf-Bizというのを結構参考にするということは大事だと思います。これは東大和市では対象外ではないかなとは思いますが。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今、対象外という御意見もいただきました。ほかに御意見等ございますでしょうか。

それでは、ないようでございますので、対象外ということでまとめさせていただければと思います。

次に、ス、相談者に対する親身な対応と実績があることに感銘したということでございます。これにつきまして、これは事業に対する感想かもしれませんが、何か御意見等、分類するのか、それになじまないのかということも含めまして、御意見をいただければと思います。

今、委員の方から、対象外かなというような御意見ございました。対象外ということにさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

次に、セ、相談者と伴走するという姿勢、相談しやすい環境がある。これが経営者が事業を継続していく土

壤になっていると感じたというような御意見でございました。これにつきまして、②番、③番、④番等、また対象外ということで何か御意見等ございますでしょうか。

○委員（木戸岡秀彦君） 相談しやすい環境があるということはすごく大事なことで、これはずっと続く。トのところの、相談件数とリピート率が高いというのは、そういった意味では、そういった環境をどうつくっていくのか。これは東大和市でも参考にしなければいけないなっていうことを感じた。具体的にどうしていくのかっていうのはわかりませんが、③番ではないかなと。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

東大和市としても相談窓口があって相談を受けている中で、よりこの相談者と伴走するという、この環境づくりが大事、そういうふうに改善するべきだということで③番ということでございますね。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

そうしましたら、③番に分類するというところでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

次に、ソ、「聞く」「見つける」「提案する」「伴走する」というサイクルが回っていると感じた。相談を聞きっぱなしではなく、次につなげるということが発展の力なのではないかという御意見でございました。これにつきましては何か御意見等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） これはセと同じだと思いますが。

○委員長（佐竹康彦君） 今、セというふうな、同じという御意見をいただきましたので、そうしましたら③番ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） 次に、タでございます。

相談者の売り上げを上げるための、相談者のセールスポイントを見つける、やる気を起こすというのが大事だという御意見でございます。これにつきましては御意見等ございますでしょうか。

セ、ソと同様の御意見というような感じもございますが、もしそれでよろしければ、③番ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

次に、チ、自治体合併により、従来の商工会議所間で競争精神が生まれたのではないかとということでございます。これは状況分析というようなことでございますので、私としては、済みません、対象外ということかと思うんですが。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） じゃ、それでよろしく願いいたします。

次に、ツ、地元の遺産を商品化するということを若い人に教育している。こういった点でございます。この点につきまして何か御意見等ございますでしょうか。

○委員（関田 貢君） 私はね、地元の遺産を商品化することっていうのは、私、中学校で職業体験っていうのがあるんですね。その職業体験で皆さん、僕なんかも地域の名士として先生から、こういう職場で地元の商店街を紹介してくれとか、大工さんを紹介してくれとか、地元の床屋さんを紹介してくれとか、そういう職業体

験があるんですね。ですから、そういう商品が遺産となって、今言うように、観光資源の遺産と結びつけるとなると大変なことなただけれど、東大和の財産という言い方で、そういう振興策で継続的に商店を守っていく。あるいは、そういう工業なら工業で、東大和でつくっている工業の製品を守っていくというようなことの教育では、ぜひこの若い人に教育をしていくというと、幅広い教育ということで、僕なんかこういう地元の遺産の商品化ということについては、当市もそういうことで注目をしたいなと。私は、こういうシステムがあってもいいんじゃないかなと思います。ですから③番ですね。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今、③番に分類という御意見をいただきました。ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） 地元の遺産を商品化するってということについては、今、東大和市は何か取り組みがあるのかどうかということになると思います。どうも私自身、ちょっと勉強不足なのか、イメージできないところもありますので、これは今後そういったことに取り組んでもらうということで、分類するんだったらば④番かなと。

○委員（関田正民君） 東大和市には遺産はないけど、今、茶うどんとかいろいろ商品を考えてやっていますよね。そういう意味においては②番に当たるのかなと。いわゆる取り組みが進んでいるという点で。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今、3名の方からそれぞれ②番、③番、④番というような分類の御意見がございました。ほかに御意見いただけてない3名の方。

もちろん、御意見いただいて、分類を分けてと……。

○委員（森田真一君） そういう意味で言ったら、今、茶うどんの例を挙げられましたがけれども、特にお茶関係は商品開発を静岡の学校に行ったりとかして、勉強してきて商品開発を展開させているという例を幾つかのお茶屋さんでは伺いましたので、あえて言えば、東大和も進んでいるという、だから極端に言えば①に入れてもおかしくないというふうに思って、そこはお互いどちらもいいところがあるというふうに今思いました。茶うどんだけじゃなくて、また新しいうどんもこの間つくられましたし、それから、茶サイダーなんていうのも、この間、農業委員会で紹介していただいたりとか、そういうふうにどんどん、どんどん矢継ぎ早にやっているということと言うと、①に入れても決しておかしくないと思いました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。

この意見については、それぞれの分類に当てはまるというようなことで、そうしましたら、今御意見いただきましたので、それぞれの分類にもかかってくるということで、このツにつきましては、今おっしゃっていただいた形で、それぞれの分類にツの意見を分類すると。重なってくるよと、それぞれの点にわたるよということで、全部に分類させていただいてもよろしいでしょうか。済みません、よろしく願いいたします。

それでは、テ、事業においてかかわる業種が、小売りサービス業と飲食業が過半だ。この点は参考事例として普遍的なのではないかという御意見でございました。分析というふうにもとれますけれども、これが対象外なのか。すぐれた御意見ではあると思うんですけど、分類になじむのか、なじまないのかも含めて、済みません、ここで私が区切ってしまうと恐縮なんですけども、委員の皆様から御意見いただければと思います。

○委員（根岸聡彦君） これは結果としてそうなっているという意見だというふうには私は理解しますので、対象外かなと。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

今、対象外という御意見をいただきました。もしよろしければ対象外で分類させていただいて。はい、じゃ、よろしくお願いたします。

次に、ト、相談件数とリピート率が高いというのに大きな関心を抱いたという御意見でございました。先ほどの相談者の環境云々ということともかかわるかというふうに思うんですけど、もしそれでよろしいのであれば、③番ということで分類させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

次に、ナ、アマビズのスタッフの教育がしっかりなされている。そのことが、やる気の出るアドバイスを生み、新規創業数の成果につながっているのではないかという御意見です。これにつきましては、御意見等いただければと思います。

済みません。ここで委員長の意見を言うのも何なんですけど、既に東大和市の事例を学んで、相談等も、また創業塾等も開催している中で、スタッフの教育をしっかりしていくという部分では当然当市としても取り組んでいるところだろうと思いますので、継続もしくは、よりさらに改善して行ってほしいということで③に分類されるのかなというふうに今考えました。いや、違うよというような御意見があればぜひいただきたいと思うんですけども、もしそれでなければ③番に分類させていただいてもいいのかなと。③番でよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは、これにつきましては③番に分類させていただければなというふうに思います。

ここで10分間休憩いたします。

午前10時28分 休憩

午前10時38分 開議

○委員長（佐竹康彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、資料に基づき、分類を進めてまいりたいと思います。議事進行の都合上、それぞれ御意見を全て読まずに、冒頭の記号のみで指示を出ささせていただければなというふうに思います。

次に、ニの御意見について、委員の皆様からの御意見を承ればと思います。

○委員（根岸聡彦君） これはあくまでも意見なんで、分類の対象からは外れるんじゃないかという気がします。

○委員長（佐竹康彦君） 今、対象外ということで御意見いただきました。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

もしなければ、そうしましたら対象外ということで分けさせていただきます。

次に、ヌの御意見につきまして、皆様から御意見を承ります。

○委員（森田真一君） これは3または4で、よりやっていくべきことではないかというふうに思います。どっちでいくか、どっちになるの。④でいいんですか。じゃ、そういうことでお願いします。

○委員長（佐竹康彦君） はい、④番。

○委員（実川圭子君） ここだったか、ほかのところだったか、私、同じような質問したときに、ホームページでは成功事例などを載せているということだったので、③番でもいいのかなと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

○委員（木戸岡秀彦君） 今、実川委員がお話したように参考事例が載っているということなので、そういった部分では、成功事例は非常な有効なことでは、③番でいいんじゃないかな。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

それでは、③番に分類させていただいてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

続きまして、ネの御意見につきまして、委員の皆様からの御意見を承ります。

○委員（実川圭子君） この1社100人よりも100社100人の雇用というのは、非常にインパクトがあつていいかなと思ったんですが、直接すぐに東大和に当てはまるかという、ちょっとよくわからないので、②の進んでいる取り組みということで、分類でお願いしたいと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。今、②天草市のみの取り組みということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） そうしましたら、②に分類させていただきます。

続きまして、ノの御意見につきまして、委員の皆様からの御意見を承ります。

今、皆様から複数、③でいいのではないかなというような声が上がっております。③でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） そうしましたら、③に分類させていただきます。

続きまして、ハの御意見につきまして、皆様からの御意見を承ります。

今、皆様から③のほうではないかなというような御意見が複数ございました。③でもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。それでは③に分類させていただきます。

次に、ヒの御意見につきまして、皆様からの御意見を承ります。

何か御意見等ございますでしょうか。今、③かなというような御意見がありましたけれども、ほかに何か。

全てにかかわってくるでも結構でございますし。（「②か③だね」と呼ぶ者あり）今、皆様から②でもいいのかなというような御意見もいただきました。

○委員（木戸岡秀彦君） 情報力発信を強化して商業を確保するということから、東大和でも。継続して取り組むべきなんだと思いますので、③ではないかなと。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） その部分については、確かに木戸岡委員の意見に同意をするんですが、同時に生活圏に根差した仕事をつくるということになってくると、今度は②かなと。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。（「だから、どちらにも当てはまるような気がします」と呼ぶ者あり）どちらにも当てはまるという気がしますということで、確かに意見の中で2つわたっておりますので、そうしましたら、②と③にそれぞれ分類するということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

それでは次の、既に終了した産業振興事業（公募型）について、この御意見についての分類に移りたいと思います。

2つ意見ございます。まず、フの御意見につきまして、それぞれ皆様から御意見承ればと思います。

もし御意見ないようでしたら、大変参考になったということでございますので、これは感想ということで、対象外、分類になじまないものにさせていただいても構いませんか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） それでは、対象外にさせていただきます。

次に、への御意見につきまして、いかがでございましょうか。

○委員（実川圭子君） 産業振興の部分で公募型というのは、東大和市では今やられていないと思うんですが、私としては、これぜひやっていただきたいと思っているので、④に入れていただきたいと思いますが、現在のところ、そういう取り組みがなくって、すぐにどうということでないのであれば②なのかなという気もしますけれども、私としては④に入れていただきたいなと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。②か④かということで御意見いただきました。④を中心に、そうでなければ②ということでもありました。どちらに分類してもいいというような考え方もございますが、ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（関田正民君） これ、もし番号を入れるなら④じゃないでしょうかね。私は④番のほうが。やっぱり取り入れるということですね。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。今お二方から④番という御意見いただきました。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

もしないようでしたら、④番ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

以上で資料2の分類につきましては終了させていただきます。

次に、資料3、東大和市の調査について、分類を進めてまいりたいというふうに思います。これは各委員の皆様からの御意見のみではなく、市長部局との質疑等を含めての御意見、または質疑をこの資料に載せさせていただいておりますので、それぞれの項目につきまして、A B C Dとアルファベットで質疑、御意見等分けさせていただいております。

まずは1点目の創業塾の進捗状況と今後の方向性について、これがAからHまで、質疑または御意見等ございます。これでそれぞれ何番に当てはまるかについて御意見いただければなというふうに思います。このAからH、または委員からの意見等がある中で、①番に分類されるものをそれぞれ挙げていただければなというふうに思います。

補足でございますけれども、質疑でございますので、市の状況を確認するという中で、この分類になじまないような質疑の内容ですとか御意見等もあるかと思っておりますので、この分類の内容に即した形のもののみ挙げていただいても結構でございます。これは対象外というような形ものは挙げていただかなくても構いませんので、①東大和市の取り組みが進んでいるというふうに思われる点について、これはそうだろうというようなことございましたら、御意見いただければと思います。

ここで暫時休憩いたします。

午前10時52分 休憩

午前10時53分 開議

○委員長（佐竹康彦君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

皆様、さまざまな御意見があろうかと思しますので、それでは、私のほうから委員の皆様へ投げかけをさせていただきますので、御検討いただければなというふうに思います。

創業塾・創業セミナーが26年から28年にかけて行われております。このAの部分でございます。創業塾を行っているということにつきましては、東大和市としては取り組み進んでいるというふうに委員長としては考えられますけれども、皆様、御意見いかがでございましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） そうしましたら、①に分類させていただきます。

次、Bの質疑等につきましては、これは状況確認ですので対象外というふうにさせていただければと思いますが、いかがでございましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） 次に、Cにつきましては、東大和市として女性対象の創業塾も開始して、ターゲットを絞ることの一定の効果も認めているということで、これにつきましては現在取り組んで、今後も継続という形ですので、③番に取り組みということによろしいですね。

じゃ、次にDにつきまして、中小企業大学の活用ということでございますけれども、もう既に取り組んでいるということで、これは③番ということで分類させていただいてもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） 次に、Eでございます。商店街の活性化と各関係機関との連携ということでございます。既に補助制度等も含めて、市としても取り組みを行っているところでございます。これにつきましても、D同様継続、またはさらなる改善を望むということで、③番ということでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

次に、意見ということで委員の皆様から出していただいております。創業塾の取り組みが、そのほかの市の課題の解決にそれぞれ寄与するような、そういった有機的な取り組みの効果が見られているということ、こういった形で、それぞれの分野にわたって創業塾から他の市政の課題の解決に結びつけていくという有機的な取り組みということで御意見ございましたので、これにつきましては、創業塾との絡みということで①番に分類させていただければなというふうに思います。もしくは、既に取り組みが始まっているということであれば、③番ということなんですけれども。（発言する者あり）今③番という御意見がございましたので、それでは③番に分類させていただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

次、Fの御意見でございます。創業塾の対象者ということでございます。広報、アプローチ、その他のお話もございましたけれども、これにつきましては、既に取り組みを開始してございますので、継続・改善ということで③に分類させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。（「いいと思います」と呼ぶ者あり）

り) 次の御意見なんですけれども、さらなるアピールをするということ、これも③番ということで分類させていただいてよろしいでしょうか。

それでは、Gの御意見でございます。各機関との連携ということでございます。これにつきましては、もう既に行っている。または天草との比較という意味でも、東大和市も既に取り組んでいるということでございますので、これもさらなる継続・改善ということで③番に分類されるのかなというふうに考えますけれども、この点につきましては、いかがでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長(佐竹康彦君) ありがとうございます。

続きまして、Hでございます。相談窓口の件でございます。既にこれを始めているということでございますので、さらなる継続・改善ということで、これも③番ではないかなというふうに考えますけれども、よろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長(佐竹康彦君) ありがとうございます。

以上で、創業塾の進捗状況と今後の方向性についての意見の分類を終了させていただきます。

次に、商工会、JA、金融機関との連携について、これは御意見、御感想等がIからLまでございます。それぞれについて分類を進めてまいりたいというふうに思います。

まず、Iにつきましては、スタンプラリーですとか、一斉富くじセール等の状況確認でございました。これにつきましては、状況確認ということなので、対象外なのかなというふうにも考えるんですが、一方、今後も引き続きということで、③番に分類してもいいのかなというふうに思っております。これについて御意見等ございますでしょうか。

もし状況確認の質疑だということであれば、対象外にさせていただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。(「対象外」と呼ぶ者あり)はい、では、そうさせていただきます。

次に、御意見、これは質疑の答弁に対する御意見ということでございますので、これはまた対象外ということにさせていただければなというふうに思います。

次に、Jにつきましては「新・元気を出せ商店街事業」について、さらなる商店街が共通して取り組める仕事の観点からの質疑、提案というふうに受けとめております。これにつきましては、既に取り組んでいるもののブラッシュアップという観点から、③番に分類されるのかなというふうに思いますけれども。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長(佐竹康彦君) ありがとうございます。では、そうさせていただきます。

次に、Kの御意見でございますが、商工会との連携の中で創業の実例、相談、また宣伝、こういったことでございます。これにつきましても、既に創業塾を開始している中で、東大和市としても、この相談窓口を設けてさまざまやっているということでございます。さらなる継続・改善という観点から、これも③番に分類させていただいてもよろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長(佐竹康彦君) ありがとうございます。

次に、Lでございます。これにつきましても相談窓口の内容でございます。ちょっと誤植がございました、済みません。これにつきましても、この今ワンストップの窓口を設定するというところでございますので、これ

につきましても継続して取り組んでいただきたい、またはさらなるブラッシュアップがあればということで、③番に分類させていただいてもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

それでは、商工会、JA、金融機関との連携についての分類については以上で終了させていただきます。

次に、既存の市内事業者に対する事業の存続発展に関する行政のかかわりということで、これはMからOまでの質疑、御意見等がございました。順次取り組んでまいりたいと思います。

スイーツウォーキングの今後の事業展開についてということでの質疑、またはさまざまな現状確認等がございました。また、工業分野に対しましての対策についての質疑でございます。これにつきましても、今現在、東大和市が取り組んでいるスイーツウォーキングの事業、または工業分野につきましても、若手技術者育成事業補助金、この御説明がございました。これにつきましても、③番に分類という形かというふうに考えますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

次に、Nの御意見でございます。「新・元気を出せ商店街事業」についてでございます。また福祉作業所の製品の販売等についての質疑もあわせてございました。これにつきましては、やはり既に取り組んでいる事業に対しての御意見で、さらなる改善をしてほしいというような部分も質疑の含意にはあったのかなというふうに思います。市といたしましても、さまざまな機会を捉えてアドバイスができるよう取り組みたい等々の御答弁もございましたので、これも③番ということで分類させていただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

次に、Oでございます。市の総合計画と産業振興のかかわり、または観光事業とのかかわりということでございます。各種連携という部分も含めての答弁もございましたので、これにつきましても、継続、改善という観点で分類をさせていただければと思いますが、いかがでございましょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

次の意見でございます。アマビズの最後のイメージ図が大変印象に残ったということで、ぱっと見てわかるようなものをぜひイメージしてほしい。また、市外からも人を呼び込めるような、そういった産業振興の広がりというような御意見がございました。この御意見につきましては、ちょっと2つに内容が分かれておりまして、私といたしましては、この天草の事例を受けて、ぱっとわかるようなものもつくってほしいということでございますので、まずは前半の意見は④番に分類されるのかなと。あわせて同様に取り組みを改善するという観点からは、③番のほうに分類もされるのかなというふうに思っております。両方にわたるというような観点でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

以上で既存の市内事業者に対する事業の存続発展に関する行政のかかわりということの分類を終了させていただきます。

続きまして、地元農家の直販の箇所、売り上げについてというところに移らせていただきます。

これはPからQまででございます。Pにつきましては農地の減少、また玉川上水から中央通りにかけて、ない地域についての設置、来客数の減少、この3点の質疑があったところでございます。これにつきましては、状況確認ということでございましたので、これは分類としては、状況確認ということで、対象外ということでもよろしいでしょうか。（「改善してほしい」と呼ぶ者あり）今、改善してほしいという部分もあるというというようにもございましたので、そうしますと……

○委員（根岸聡彦君） 答弁の最後のところで、農家ができ得る範囲で一生懸命野菜づくりを極力市内で消費していただけるよう努めているところだという取り組みが述べられておりますので、一概にそのまま対象外にしていいのかなと。もしできたら、やはりここはもう過去からずっと継続してやっていることですので、引き続きお願いしたいということで、③番に分類してもいいのかなというふうに思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。今、根岸委員からの御意見ございました。そうしますと、③番のほうに分類をさせていただいて、農業振興政策につきましても、引き続き継続または改善に努力していただきたいということで、③番に分類するということがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

続きまして、Qでございます。27年度の共同直売所実績についての耐震工事の影響でございますので、これにつきましても状況確認ということで、対象外のかなというふうに考えましたが、これについては。（「状況確認だけです」と呼ぶ者あり）はい、ありがとうございます。そうしましたら、これは対象外のほうにさせていただきます。ありがとうございます。

以上で資料3につきましての分類を終了させていただきます。

では、次に、資料1の取りまとめに関する案の5で、調査と議論を経ての今般の所管事務調査における委員会としての意見のとりまとめとなっておりますので、先ほどの資料4で、1から4にそれぞれ分類していただきました意見、質疑内容を資料5、所管事務調査「市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みについて」に関する取りまとめ分類の表の積極的な推進を要望する内容（継続して取り組み事項）及び短期的に課題解決を目指すべき事項、及び漸進的な推進を要望する内容（中長期的視野に立って将来的な事業実施や課題解決を念頭に関係部局による検討、研究をすべき事項）の2種類にそれぞれ分類をしまいたいというふうに思います。

今、皆様にお時間をかけていただいて、それぞれ分類をしていただきました。一つ一つまたこれはこれということでやりますと、それぞれ重なっている部分もございますので、それぞれ委員の皆様から、これまで所管事務調査で行ってきた内容、皆様の御意見、今分類を経てきた内容も踏まえまして、それぞれ今後、東大和市の産業振興の中で、これは積極的に推進を要望する。つまり今ある継続しているものを引き続きやっていただきたい、また、今ある事業をさらにブラッシュアップ、改善をしていっていただきたい、しかもなるべく早目にそういうことはやっていただきたいというふうに思われるものについて、積極的な推進を要望する内容として御意見をいただきたいというふうに思います。

また、天草市の事例を学びながら、また東大和市の現下の取り組みを学ぶ中で、中長期視点に立って、すぐには課題解決に結びつかない、また、すぐに取り組めないかもしれないけれども、将来的な観点から検討、研究を関係部局において進めていただきたいという内容について、漸進的な推進を要望する内容として御意見を

賜ればというふうに思います。

一つ一つ個別のことを言うていただいても結構でございますし、また大まかに、積極的な推進はこれとこれとこれ、また漸進的な推進はこれとこれとこれというような形で御意見を述べていただいても構いませんので、これまでの回を重ねた委員会での所管事務調査の内容を踏まえて、ぜひとも委員の皆様、お一人お一人に御意見を賜ればというふうに思います。その御意見を今ここに2つに分類させていただいた上で、それらを取りまとめた内容に反映させていただければなというふうに思います。御発言をいただければなというふうに思います。いかがでございましょうか。

○委員（実川圭子君） 質問なんですけども、今、記号でAとかカとかやりましたよね。それをここにまた振り分けるという意味ではなくて、もっと自分の言葉で発言してよろしいんでしょうか。

○委員長（佐竹康彦君） はい、ありがとうございます。その記号一つ一つ振り分けるというよりも、この振り分けた記号を踏まえまして、それぞれ今御意見を資料等で確認していただきましたので、御自身の言葉で今分けた分類、またこれまでの委員会での調査も踏まえて、例えばですけれども、今創業塾については取り組みを開始しているけれども、この創業塾についてはもっとこういうことをしたほうが、よりよくなるんじゃないかなど。しかもそれは中長期的に将来ではなくて、短期的にこれ取り組んだほうが、より効果が上がるんじゃないかなというように形で御意見をいただければなというふうに思います。ありがとうございます。

○委員（木戸岡秀彦君） 私は1点、中小企業大学校というのが東大和市にあって、これすばらしい取り組みをしているんだけど、まだまだ広く市民とか企業に行き渡っていないというのが実情じゃないかなと思います。特に東大和市民に対して、中小企業大学校はあるけれども、なかなか何をやっているのかわからないという状況、結構意見を聞くんですね。そういった意味では、中小企業大学校のよさを、広報を本当に幅広くしていくことによって、かなり生かされてくるんじゃないかなど。まだまだ知られていない部分があるので、それをちょっと積極的にやってもらいたいなという部分が私の意見です。

○委員長（佐竹康彦君） 今、中小企業大学校についての広報ということでございます。それは産業振興分野にかかわる中小企業大学校との連携の中で、その役割というものを、より積極的にアピールしてほしいと。そういう意味では、積極的な推進ということに分類させていただくということで、そういった御意見ということで。はい、ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） 中小企業大学校のいわゆる広報、いわゆる認知度を高めていくような取り組みというのは、もうすぐにでもやっていただきたいというものがあります。

創業塾、あるいは創業セミナーというものについては、やはりこれは継続してどんどん続けていってもらわないと余り意味がないだろうなということで、中長期的視野に立ってやっていただきたいと。現実問題として、今全国で起業されている方々、新しく会社を興して、株式会社の場合、1年経過せずに廃業になるような会社が約90%あるというふう言われているデータもありますので、そこは今、創業支援の窓口が産業振興課のほうにできて、ワンストップ窓口ということで、専門的なアドバイス先につなげるというようなこともやっておりますので、そういったところも力を入れていっていただきたいというふうに考えます。

既存の市内事業者に対する事業の存続発展という部分で、スイーツウォーキングが例に挙がっております。この取り組み、非常にいい取り組みということで拡大しているということですので、今後さまざまな分野に広げていっていただきたいなど。こちらのほうはちょっとしたアイデアですぐにでも成果が出せるようなものは

つくれるのではないかなというふうに思います。

○委員長（佐竹康彦君） 今御意見いただきました。まずは創業塾につきましては、既に行っておるので、これは継続して取り組むということで、そうしますと、継続して取り組むということであれば、積極的な推進を要望する内容にも分類されますけれども、と同時に、これを何年間かで終わらせるのではなくて、中長期的視野に立って同様の取り組みを引き続き行っていくような、そういった検討も進めていってもらおうということで、そういった内容も漸進的な要望のほうにつけ加えさせていただく。また、相談窓口、アドバイス等につきましても、これはやはり短期的にということでもよろしいのでしょうか。すぐにでも何かしらの検討を加えてやっていただきたいというふうなことで積極的な内容。また、さまざまなアイデアをいただきながら、この既存のスイーツウォーキング等の事業も引き続き行っていくということで、これは研究検討ということで、漸進的な内容ということに分類させていただいてもよろしいですか。

○委員（根岸聡彦君） 創業支援窓口というのは、いわゆる創業塾、創業セミナーと一体的なものですので、ずっと継続してやっていただかないといけない。短期的に課題解決を目指すものかどうかということ、やはりそこはいろんな分野、あるいは起業の仕方、その人の意識、それから経済状況等によって変わってくると思いますので、さまざまな状況に対応できるような形で、これはやはり長期的な展望に立って継続していただかないといけないだろうなというふうに思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

○委員（関田 貢君） 私、総論で、創業塾っていうのは、この後継者育成事業に僕はなると思うんで、東大和の実態ということでね、その工場地域、例えば東大和は何社あるのか。そして、現在例えば100社あって1,000人雇用だと。その雇用のデータが伸びているのか減っているのかっていう数字をね、私たちは勉強するべきじゃないのかなと。そして、東大和の商業ね、今度は工業はそういう何社あるか、何人雇用しているか。中小企業でそういうことを問うならば、食べ物屋さん、飲食店が何店舗あって、それでその飲食店の中には食べ物屋さんや夜の変なスナックとか、あれはいろんな分類があると思う。そして理髪業ということ、そういう実態があって、それが衰退しているという現象の中で、私たち委員会がね、ここの事業所は頑張ってるなっていうときに、褒めて与えるというようなことが建設環境委員会で、あなたの企業はよく努力してるねという評価点、これをこの建設環境委員会が審査ということで、その審査対象をみんなが受けやすく、雇用で頑張ったとか、売り上げでこの企業は伸びたとか、そういう見本を知らしめる。

この人は毎回売り上げっていったらトップだと。トップの人を表彰するんじゃなくて、トップの人はこの人は毎回売り上げて、この例に倣って、次に何々の品種が違う業種で、この人も売り上げ伸ばしたとか、そういうのを我々委員会が見定めてね、その委員長表彰をして、こういう企業はよく頑張ったということで、誰もがもらえる。雇用でね、この人は3人から5人にふやしたと。よく1年間頑張ったねと。あるいは我々2年間の委員会が任務ですから、2年間の任期中に雇用の関係はどうなのか、売り上げでどうなのか、工場地域での雇用はどうだったとか、そういうのを広く何点を絞って、全部全部やったら大変な賞になっちゃうんで、その工場地域のその雇用と、あるいは従業員のやっぱ売り上げがあるでしょうから、雇用で。そうして中小企業で食べ物っていうことで飲食店の雇用と売り上げの、その業種別を見たところ、褒めたたえて頑張んなさいよというような制度がね、私は必要じゃないかと。

そういうふうになってったときに、創業塾で東大和の雇用が、ここがちょっと落ち込んで。こういう業種は地域住民にとっては、これからの高齢化社会では、ここの地域ではこういう店があればいいねとかっていう

委員会での提案で、今度はそこへ起業塾の皆さんが、ここの地域でこういう商売成り立つかどうかというの
も提案ができると思うんですね。

だから、そういうようなことを発掘するためにも、私たち委員会が実態の東大和市内の工場地域はどうなっ
てるのか。そして商店街の過疎化、過疎化と、シャッター街と言われる商店街の実態はどうかということ
を数字で業種ごとに分けて、それで競う。よく頑張ったねっていったときに、店がきれいだとかって、そうい
うことじゃなくって、そういう我々は皆さんが底上げしてあげられる評価を与えるってということが、我々常任
委員会でせつかくこういうことを、我々事務方だけでやるんじゃなくて、これに参加する商店や企業の皆さん
のところに、我々のこういうことであんたのこの会社に期待してるよ。商店の皆さんは、ここの売り上げ伸
ばして雇用でよく頑張ったねという賞をね、我々は検討してあげるといことも、こういうようなことでは応
援してあげることが企業の活性化ややる気につながっていくんじゃないのかなと私は思いました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。今の関田貢委員からいただきました、行政に対してこれこ
れを要望したいというようなことではないけれども、議会としての取り組みとして、この商工業者に関するさ
まざまな事象を調査して、顕彰することも必要じゃないかということでもございました。もし仮にこの2つの分
類に分けるといたしましたら、これは行政ではなくて議会ですけれども、中長期的な視野に立って研究検討す
べきという課題に分類をさせていただいてもよろしいのでしょうか。議会がやるということで、行政ではない
けれども、議会が取り組むべきこととして、我々が考えていかなければいけないということで。わかりました、
ありがとうございました。

ほかに何か御意見等ございますでしょうか。

○委員（実川圭子君） ちょっとまだちゃんとまとまらないんですけども、短期的な課題としては、ぜひ担当者
の方に f-B i z のことを視察なり研究というか、知っていただきたいというのが1つあります。

それから、中長期的には、1点は今、関田貢委員からも出ましたけれども、やはり例えば商品をつくったと
しても、起業したとしても、それをやりっ放しじゃなくて、それがどう成果につながっていったかという、そ
の結果ですね。それを正しく分析していくということが必要だと思うので、現状の分析と、それがどう変化し
たかっていうことを見ることで効果が見られたりとか、あとは何が足りないとか必要とかっていうのが見えて
くると思うので、そういう状況の分析というか、そういうのはしっかりやっていくべきだなというふうに思
います。

それからもう一点、中長期的には、先ほど産業振興の公募型っていうのが天草のほうであって、東大和でも
事業に取り入れたほうが良いということで分類した部分については、ぜひ研究を進めていただきたいというふ
うに思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。今、委員からございました短期的、また積極的な推進の分類
と中長期的な分類に分けていただきましたので、そのような形で、そうしましたら意見として反映させていけ
ればなというふうに思います。

ほかに何か御意見等ございますでしょうか。

それでは、委員長からなんですけれども、先ほど分類で③番、東大和市の取り組みで、継続または改善とい
うことに分類していただいた御意見は、こちらで言えば継続して取り組むということで、積極的な推進を要望
する内容に集約されるのかなというふうに思いますので、皆様いただいた御意見、また質疑内容等も含めて、
この③番に分類されたものにつきましては、積極的な推進を要望する内容に反映をしまいたいというふ

うに思います。

その他、漸進的な推進を要望する内容ということにつきましては、例えば④番の比較対象の天草市の事例から、東大和市の事業に取り入れたほうがよいと思われる点に分類されたものにつきまして、こちらもこの前の委員会でいただいた御意見をこちらのほうにも反映させていただければなというふうに思います。

また、①番、②番につきましては、②番は天草市が進んでいると思われる点でございますので、東大和市のその事業に直接どうこうするという部分ではないので、参考にとどめさせていただきながら、①番につきましても、これは積極的な推進を要望するということで、あわせて入れさせていただければなというふうに思います。もしほかに御意見等がないようでしたら、今この場で出た御意見、またこれまでの所管事務調査等でさまざま皆様に御発言いただいた内容も含めて、1回報告書を取りまとめさせていただければなというふうに思います。

また、ほかに今言い足りないよと、またはそういった報告書に意見を反映、例えば積極的、漸進的ということで反映はしなくてもいいけれども、少数意見としては、これは載せておいてほしいというようなことがもしございましたら、この場で御発言をいただければと思いますが、いかがでございましょうか。

○委員（実川圭子君） 先ほどいろいろな分類をしたときに、③の東大和市の取り組み、既にされていて、けれども継続したりとか、改善したりという意見が非常に多かったというのがあったと思いますけれども、分類をしていた中で、天草市の事例の天草市起業創業・中小企業、アマビズについてのところで、アマビズのスタッフの教育がしっかりなされているという、そのことがやる気の出るアドバイスを生み、成果につながっているのではないかと、分類が東大和市でも取り組みはされているという分類になったんですけど、それはいいんですけども、実際、東大和でやっている相談の事業とアマビズの事業というのは、やはり違うところがあつたと思うんですね。そこが、東大和市でもある程度取り組みがされているけれども、アマビズとはやっぱり違ったので、皆さんいろいろ意見が出たと思うので、その点を何かちょっとうまくつけ加えていただけたらなというふうに思います。決定的に何か違うところがやっぱりあつたのではないかと私は思っているんですけども、その点について、東大和では取り組んでいるけれども、改善していくっていうのは、アマビズのその事業を参考にしてほしいとか、ちょっとつけ加えていただけたらなと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。既にそういった形で、例えば相談窓口等につきましては、商工会に加盟していない商店の方も垣根を低くして、アマビズで相談を受けて事業改善したというような内容も学んできたところでございますので、例えばそういったことも含めて、さまざまいろんなそれぞれ参考になることもございましたので、そういった部分も含めて、例えばf-Bizですとかアマビズの研究も、積極的に東大和市に取り組んでいただきながら、いい点を吸収していただくというような形で、そういった御意見、反映できればなというふうに思います。ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

それでしたら、こういった分類等につきましては、以上で終了させていただければなというふうに思います。そうしましたら、今皆様からいただいたさまざまな御意見等を踏まえまして、正副のほうで所管事務調査の取りまとめ案を作成をいたしまして、また皆様にごらんをいただき、御検討いただければなというふうに思っております。

お諮りいたします。

本日の所管事務調査、市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みにつきましては、この程度にとどめた

と思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） 御異議ないものと認め、さよう決します。

○委員長（佐竹康彦君） これをもって、平成29年第1回東大和市議会建設環境委員会を散会いたします。

午前11時28分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 佐 竹 康 彦